

仙台教区 復興支援活動ニュースレター

4 → 6 ・ 4 5 通信

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
 〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
 カトリック仙台司教区事務局
 TEL 022-222-7371 FAX 022-222-7378
 義援金振替口座：02260-9-2305
 名義：カトリック仙台司教区本部事務局

2016年3月末で閉鎖される仮設住宅での「水曜喫茶」について、「北仙台教会支援グループ」の活動を振り返っていただき、郡山教会では、神戸からアンサンブル・イソジーナを迎えてのコンサートの様子をお伝えいただきました。「チーム亘理」は、仮設の転換期に被災者とどう向き合うかについて話し合いました。同じ転換期を迎えた方々のご参考にと紹介いたします。

全国の支援者に支えられて 北仙台支援グループの活動

カトリック北仙台教会 村山 晶子

未曾有の大震災から早4年9ヶ月・・・

被災された皆さまは、今もどんなにか震災前の生活を求めていらっしゃるか察するに余りありますが、仙台市内の仮設住宅は来年3月を目途に閉鎖を予定していることを伺いました。

東日本大震災が起こったあの時・・・

北仙台教会は、震災が起こった1年前に震災用非常食を備えてありましたので、ライフラインはまだでしたが、3日後には炊き出しをすることができました。看板を見て最初に利府から何も食わずに北仙台まで歩いてきたという男性が、来る途中で目にした光景を、浸水し川のようになっている凄まじい状況を話してくれたことが今でも忘れられません。

1ヶ月間夕食の炊き出しを続け、コンビニもぼちぼち開いたので田子、福室、高砂の各市民センターにコーヒーやお菓子を持ってうかがい、コーヒーの香りに癒されると皆様にとっても喜んでいただきました。その時、同時に教会でも外部に向けて平日午後1時～3時まで“開かれた教会”を目指して喫茶室「チャリティ・カフェ」を開きました。これは、今後も継続していく予定です。

避難所から仮設に移られた8月から高砂仮設住宅、鶴巻仮設住宅へ「水曜喫茶」という名前で週一回うかがい、間もなく扇町仮設住宅にも月二回お邪魔することになりました。

高砂仮設住宅の場合は、ほぼ全員蒲生の方々に、ほとんどの方が家屋を流され、その上、ご主人様を亡くされた方も4人いらっしゃいました。全員が元来仏教の方々ですので、最初は私たちを少し敬遠されていたのではないかと思います。毎週伺い、2年目位には他愛もないお話しで笑い、またよもやま話をしてお茶をしてくださるようになりました。早くに仮設を出られた方も

その時間には必ず来てくださり、いつも約20名位の方たちが10畳位の狭い集会所で賑やかにお茶をすることができ、私たちも多くを学ばせていただきました。また、私たち支援メンバーの中に美容師さんもおられましたので、各仮設で月一回カットのサービスもさせていただき、大変喜んでいただきました。



10月末日には、それぞれの仮設で「お別れ会」をして皆で一緒に笑い、歌い、踊りそしてお弁当や仮設の方が作ってくださったご馳走もみんなで一緒に頂き、これからも絆を大切に何かの時には駆けつけることを約束して固い握手でお別れをしました。

これからも北仙台支援グループは被災者への想いを忘れず、お声をかけていただいた時には支援させて頂きたいと思っております。

北仙台教会がこれまで続けてこれたのは、主のご加護と全国のゆかりのある教会、個人の方々の祈りと大きなご支援のお陰です。支援者の皆様の被災された方への想いをうけて、私達はどの位手や足になり寄り添うことができたのか・・・懸念するところですがこれからも共同体として忘れる事なく続けてゆきたいとおもっております。



アンサンブル・イソジーナ

“ふっこうのかけ橋”in 福島 2015

カトリック郡山教会 平 伸子

- 第1部 アカペラを中心に、グレゴリオ聖歌～ルネサンス～バロック時代の宗教曲
- 第2部 懐かしい外国の歌・日本の歌

カトリック郡山教会の聖堂に、2015年10月25日 これらの歌が響き渡りました。

20年前、1995年1月17日の阪神大震災を経験したアンサンブル・イソジーナの8人は、全国の色々な方々からの形あるもの・形ないものの応援・支援が今でも忘れられないという思いから、何か自分たちにできることを！と“ふっこうのかけ橋”プロジェクトに賛同・協働し、神戸でのチャリティーコンサートを続けてこれ、東日本大震災の被災地・福島に来られました。

23日からの南相馬市鹿島区内仮設・福島市宮代仮設での交歓会を経て、25日に郡山へ。道中、津波による被災地や積み重なっているフレコンパックを目の当たりにし、また、宿では原発避難者の声を聴いたり、来なければ分からなかったと心からの声を聞きました。

“ふっこうの かけはしは なないろの
にじのように やさしく 伸びるよ
どこまでも しあわせ はこぶために
Let's cross the bridge for our future!
Let's cross the bridge for your future!
あすへの はしを わたろうよ“



これは、カトリック六甲教会の一信徒による作詞作曲された「ふっこうのかけ橋」公式テーマソングの一部抜粋です。聖堂内では、涙する者が多数いました。『福島「ふく」と神戸「こう」を合わせて「ふっこう」です〜。』との言葉に対し、橋を架けて行ったり来たりして渡って行くことにより「こうふく・幸福」になるとの言葉もありました。

川内村南1丁目仮設では、笑顔と伴奏の下でのファッションショーから始まり、「日本の歌による5つの合唱曲」・リクエストに応えての歌「真っ赤な太陽・川の流れるように・青い山脈・星影のワルツ・里の秋・水戸黄門のうた」などを、和やかに皆さまの中に入って共に声を合わせたり、方言を教え合ったり、また、村の歌を披露し・記念写真を撮ったりされている姿が本当に初めての出会いとは思えない姿でした。“恵み”でした。

「0人でない限り、1人でもおられれば何処へでも行く!」「忘れられる悲しさを知っている。だから、忘れてはいけない!」



仮設の方々とアンサンブル・イソジーナの方との交歓会

第5回チーム亶理会議 ～仮設の転換期に被災者とどう向き合うか～

八木山オリーブの会 野田 和雄

11月23日、宮城県亶理・山元地区で復興支援活動を行っているカトリックの5団体11名が参加して、亶理教会で第5回チーム亶理会議が開催されました。

集まったのは、「さいたま教区栃木県北ブロック」「八木山教会オリーブの会」「CTVC（カトリック東京ボランティアセンター）」「FMM（マリアの宣教師フランシスコ修道会）亶理修道院」「亶理教会」の気心の知れたメンバーです。半年に一度の集まりですが各グループが日ごろ協力し合って共に歩んできました。今回は、行政側の考え方の変化や被災者の環境変化に各グループがどのような考え方のうえで方向を見出して行くか、貴重な情報交換の場となりました。会議では、各グループからの活動報告のあと、“現状の問題点”及び“今後の課題”が話し合われましたので紹介いたします。

1. 各グループからの活動報告

[さいたま教区栃木県北ブロック]

月1回のペースで4月から11月まで仮設訪問。11月より地元“NPOいちごっ子”とコラボして復興住宅付近の公民館を使って、初めてのイベントを実施。今後は、地元NPOと協働してイベントを行う方向に転換した。

[八木山教会オリーブの会]

月2回旧館仮設に定期訪問、12月より旧館仮設集会所から公共ゾーン第3仮設に会場を移動して傾聴を続ける。当面2016年3月まで予定。活動4年目で支援団体、活動スタッフ共に疲れが出ているので対応策を検討中で案を紹介した。

[CTVC]

ボラパックによる亶理・山元地区のボランティアサポート実施。

公募型1回（5月から11月）企画型5回（5月から11月）カトリック系学校のボランティアを中心とした現地サポート実施。

ボランティアコーディネートと視察案内（仙台教区サポートセンター主催被災地視察A、B）

[FMM]

各グループの活動に参加して地元にとけ込んだ活動を実施。また、現地の農家を紹介して県外ボランティアをサポートすると共に、亶理教会やオリーブの会の一員としても活躍中です。

[亶理教会]

カトリック系ボランティア活動のため、宿泊を提供している。特に県外ボランティアにとって、頼りになる存在です。各活動にも協力して参加支援にも、地元力を発揮しています。



2. 現状の問題点

(1) 10月から仮設集会所閉鎖、集会所職員の常駐停止となった。

5カ所の仮設のうち2カ所のみ存続、公共ゾーン第3と中央工業団地のみ残った。
残った集会所も月1回の使用制限がある。

背景 仮設の閉鎖にともない、住民に自立を促し、災害公営住宅地域の自主運営を進める（亶理町）。一方で集会所の利用方法をめぐり自治会と町の合意がない等問題がある。

現状では外部ボランティアは地元NPOと連携しなければ場所、人の確保が難しい。

(2) 状況変化によるニーズ多様化

公民館に集まる人には、地元の被災者でない一般の人に加え、亶理町の被災者、山元町、福島県からの転入者が含まれます。被災度合や被災者意識の度合が異なるため住民同士が、馴染めない状況です。

人間関係に加え、交通の便、買い物の不自由さ憩いの場がないなど、ソフト面からの町づくりに時間がかかっている。集会所の管理者にもバラッキがあり、上浜街道では、参加者から取っても良い。西木倉では、参加者が無料でなければ利用禁止等配慮が必要。

3. 今後の課題

[町の方針] 復興住宅の被災者と元々の住民が祭りなどで垣根を取り除き自治会として一体感の形成を目指す。外部ボランティアが入ると被災者向きとなり地元住民が入りづらい。

[対策案] 地元NPOを通して自治会に働きかけて地元イベントの1つとして、参加するのが望ましい。また、仮設に残った人への寄り添いも少人数でも続けて行きたい。(さいたま教区栃木県北ブロック)

ボランティアは、寄り添う歩みから、復興に向け歩み始めた人々との連携を応援する意識で現地入りすべきだとの意見が出た。

4. 所感

被災者には、「忘れない」とメッセージを伝えながら少しずつ地元の人へ移管してゆく歩みをはじめめる段階に入ったと感じた。



チーム亶理 会議参加者たち

《被災地ツアー日程のご案内》

2016年3月～9月の被災地ツアー「被災地は今！」のスケジュールが決まりましたので、お知らせします。ツアー申込みの受付開始日は、各回とも実施の3ヵ月前からとなります。開始日前の申込みの受理はできかねますので、どうぞご了承ください。

(申込み締め切りは実施の10日前となっていますが、定員に達し次第締め切らせていただきます。) 皆様のご参加をお待ちしております。

○Aコース(宮城・岩手) *コース内容は、変更となる場合がございます。

仙台集合～亘理町～山元町～石巻市～南三陸町(米川ベース～岩手県大船渡市～釜石市～大槌町～宮古市～盛岡駅経由・仙台着

《Aコース実施日程》

◇2016年3月14日(月)～16日(水)

受付開始日：2015年12月14日(月)

締め切り：2016年3月4日(金)

◇5月23日(月)～25日(水)

受付開始日：2月23日(火)

締め切り：5月13日(金)

◇7月26日(火)～28日(木)

受付開始日：4月26日(火)

締め切り：7月16日(土)



大槌町



大船渡市



○Bコース(福島・宮城) *コース内容は、変更となる場合がございます。

仙台集合～亘理町～山元町～石巻市～南三陸町(米川ベース)～福島県南相馬市～富岡町～大熊町～楡葉町～いわき市～郡山駅経由・仙台着

《Bコース実施日程》

◇4月18日(月)～20日(水)

受付開始日：2016年1月18日(月)

締め切り：4月8日(金)

◇6月28日(火)～30日(木)

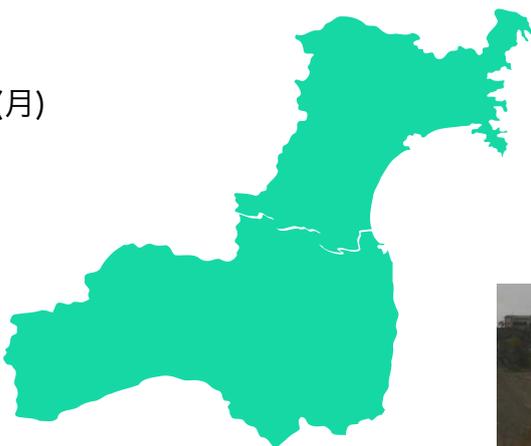
受付開始日：3月28日(月)

締め切り：6月18日(土)

◇9月12日(月)～14日(水)

受付開始日：6月12日(土)

締め切り：9月2日(金)



南三陸町



石巻市



お申込み方法など詳細は、インターネットから「仙台教区サポートセンター活動日記」をご覧ください。*インターネットをご利用いただけない場合は、仙台教区サポートセンター(電話022-797-6643)まで、お気軽にお問い合わせください。FAX等で、詳細をお送りさせていただきます。